

## 令和7年度 第9回市長タウンミーティング 概要

○ 日 時：令和8年1月31日（土）午後3時10分～4時40分

○ 場 所：吉田やまなみ会館

○ テーマ：子育て・教育

○ 参加者：61人

○ 意見交換（主な内容）

発言者1：交通安全教育について質問します。子どもの交通事故防止のため、幼稚園・保育園段階から交通安全教育を実施してほしいです。また、道路交通法改正により自転車利用に関するルールが厳格化される中、子ども自身が正しい知識を十分に理解していないケースが多いと感じます。DVDなどを活用し、分かりやすい指導を行ってほしいと思います。次に子どもの遊び場について伺います。季節や天候に関係なく、思い切り遊べる屋内施設を充実させていただきたいと思います。

市長回答：秩父第一小学校が自転車安全教育で全国大会において成果を上げたことを受け、市として「交通安全都市宣言」を行いました。現在も、幼稚園・保育園段階から交通安全教育交通安全教育を実施しておりますが、内容や方法を検証しながら、年齢に応じた指導ができるよう今後も検討していきます。次に遊び場の件ですが、全天候型の遊び場の整備については、常にご意見をいただいています。どういった形が有効なのかを内部で検討をしているところです。皆さんの意見をお聞きしたいと思っています。秩父市には、無料で利用できるキッズパークがありますが、街中に少し大きくなった子どもたちが自分で行ける遊び場が少ないと感じています。規模や運営方法など検討していくべきと思っています。

発言者2：カラーズ（秩父市在住のママ達のボランティア団体）の代表です。夏の暑さや雨の日には、外で遊ばせることができません。市内には屋内で思い切り遊べる場所が少なく、市外の有料施設に行っている家庭も多いと思います。秩父市の出生率を考えると新しい施設は難しいと思いますので、今あるキッズパークを充実させて、2階の空き部屋などに遊具を入れたりするのもよいのではないかと、0歳児から1歳児を持つお母さんたちから意見がありました。

市長回答：キッズパークについては、検討する必要があると感じています。保護者の方もくつろげるという視点も大事だと思っていますので内部で検討し

ていきたいと思えます。貴重なご意見ありがとうございました。夏の猛暑や雨天時には屋外で遊べず、子どもの遊び場が限られています。市内には十分な屋内遊び場がなく、市外の有料施設を利用している家庭が多い現状が共有されました。

発言者3：西小学校2年生に子どもが通学しています。タブレットの活用についての意見です。低学年でタブレットを使う時間が多く、文字を書く力や読む力が弱くなっているのではないかと心配しています。タブレットは正解・不正解がすぐに出るため、考える力が育ちにくいようにも感じます。実際に体験したり、紙に書いたりする学びをもっと大切にしてほしいと思い、お話しさせていただきました。また、文化継承の件で秩父音頭をほとんどの子どもが踊れなくなっているのを、自然と音を聞くと踊れるように、活動が始まるといいと思っています。

市長回答：重要なご指摘ありがとうございます。GIGAスクール構想が始まって、全国で1人1台学習用端末の活用が進んでいますが、使い方については学校ごと、先生方によって違い一様ではないと思います。タブレットの使い方の議論も始まっています。今回のご意見を踏まえ内部で共有したいと思います。秩父音頭については、運動会が縮小された影響で踊れない子どもが増えています。地域文化の継承は重要な課題であると認識しています。地域の文化を知らないまま育ってしまうのは残念なので、体育や音楽などの授業の中で取り入れる方法について、今後検討していきます。

職員回答：タブレット導入から約5年が経過し、現在は活用方法の見直し段階に入っています。学年や教科によっては、あえてタブレットを使わない選択も含め、柔軟な運用を検討しています。各学校での実践を共有しながら、より良い活用方法を整理していきます。

発言者4：子どもが原谷小学校に通っています。小学校の卒業式で中学校の制服を着るように言われたことに違和感があります。どのように決まったのか分かりにくく、子どもや保護者の意見が反映されていないと感じました。学校ごとに対応が違う点も気になります。

職員回答：卒業式の服装については、教育委員会として統一した方針を定めているものではありません。各学校長が、式典にふさわしい服装という考え方のもとで判断しています。

発言者5：2つ疑問があります。1つは、校長先生等の異動などにより、年度ごとに対応が変わってしまうのか、2点目として、中学校はどう考えているのか。小学生が中学校の制服を着ることに対して、意見のすり合わせはできているのかという点です。

職員回答：子どもにも保護者にも動揺があると思いますので、1年で変えることはありません。また、中学校との申し合わせもありません。

発言者6：大野原在住者です。卒業式の服装については、35年ほど前に華美にならない服装にしようと、保護者と学校で相談して決定したと記憶しています。まだ、小学生の段階で卒業式に中学校の制服を着るの事がふさわしいのか、学校長の判断だけではなく教育委員会としてどのように考えているのか、一步踏み出していきたいです。

職員回答：小学校の卒業式で、中学校の制服を着用する学校はあると認識しています。それは、学校判断で決定していると思います。制服のほかにも、袴、秩父銘仙など着用する学校もありますが、対応の難しさはそれぞれあるものと思っていますので、ご意見を参考にさせていただきます。

発言者7：森のECHICAです。全天候型のこども園をやっています。不登校の子どもに対する支援が学校中心で、NPOやフリースクールとの連携が弱いと感じます。どんな支援があるのか保護者に情報が届いていないと思います。

学校に戻ることを目的にせず、子どもの将来を見据えた支援をしてほしいです。

職員回答：不登校は問題行動ではなく、子どもの状態に応じた支援が重要であると認識しています。教育相談室、教育支援センター、ひまわり教室などを通じて、学校との間をつないでいるような状況です。行政としての限界はあるものの、学校外の学びの場との連携については、今後の課題として検討して行きたいと思っています。

発言者8：17歳の孫が、小学校3年生から不登校です。不登校になった人は苦しんでいます。教育相談の人が学校と連携をしてもらっても学校は動いてくれません。これが現実です。この実態を知っていただきたいと思っています。

市長回答：地域において、多様な学びの場が広がっている事は、本当にありがたいと思っています。しかし、学校だけで子どもたちの学びを支えるには限界があると感じています。社会的自立を目指し、多様な学びの場を支援する取り組みについてサポートできないか、内部で検討しているところです。皆様のお力の借りながら、地域全体で子どもを支える包容力が必要であり、多様な支援に向けて動いていきたいと思っています。

発言者9：10数年にわたり相談活動に携わってきた立場から、不登校・いじめ・引きこもりへの対応について、教育委員会の立場に関わらず、子どもたちのためになることであれば柔軟に取り組む姿勢が重要であると思いま

す。現在、NPO や外部支援団体に関する情報が、学校現場や教員に十分に共有・理解されていないのではないかと懸念されます。相談活動の中で最もトラブルが多いのは、現場の担任教員との関係であり、不登校の発生には学級担任の対応力が大きく影響しており、不登校の多い学校と少ない学校が存在する現状について、校長の判断と教育委員会への報告体制が重要だと思います。長期欠席児童生徒について、不登校か病気かを含めた実態把握が不十分であり、欠席理由を正確に把握した上で対応策を検討しなければ、不登校は減少しないと思います。過去の事例として、教員への研修を徹底した分野では問題が大きく減少しています。教員向けのカウンセリング研修も取り入れ、外部支援に関する情報収集と学校への情報提供、学校と地域・支援団体との連携強化を求めます。

市長回答：不登校は問題行動ではなく、子どもの状態に応じた支援が重要であると認識しております。教育相談室、教育支援センター、ひまわり教室などを通じて、学校との間をつないでいるような状況です。行政としての限界はあるものの、学校外の学びの場との連携については、多様な受け皿が必要な時代になってきているので法律に基づきながら、今後の課題として検討して行きたいと思います。

発言者 10：中学年の子どもがおり、2年生になった4月から学校という場所に全く行けない状態です。学校に通えない状況の中で、学校からの支援提案はあったものの、学校という場所自体が負担となってしまっています。初期対応の段階で、自校以外の多様な居場所や支援団体の情報が十分に案内されなかったことに課題があると思います。現在は、学校外の学びの場を利用し、出席認定を受けながら少しずつ子どもの状態が改善しているように感じています。今後は、学校復帰のみを目的とするのではなく、将来の自立を見据え、学校・外部機関・関係者が連携して長期的に子どもを支える体制づくりを求めます。

市長回答：貴重なお話をどうもありがとうございました。先ほどと同様の連携の話だと思いますので、よりよくできなかと考えていきたいです。

発言者 11：10年間埼玉県ネットアドバイザーでお世話になっていました。ICTやタブレットの学習の活用には、まず子どもの生活や考え方の土台づくりが重要であり、それを軽視してはならないと思います。インターネットは便利な一方で、保護者による見守りと関与が不可欠であり、学校だけでなく家庭の役割も大きい。また、インターネットの過度な利用が不登校や引きこもりにつながる可能性が懸念されます。登校に限らない多様な学びや関わり方の考えも含め、子どもが道具を正しく使えるよう、周囲が支えていく必要があると思います。

市長回答：タブレットやインターネットに対する関心の高さを踏まえ、学校ごとの判断を尊重しつつも、これまでの実践や研究から見えてきた課題を整理する必要があると思いました。特に、タブレット教育への位置づけやインターネット全般の影響について、ネットリテラシー等の啓発の現状を振り返りながら、今後のあり方を考えたいと思いました。

発言者 1 2：令和 8 年度は、学校のコンピューターの買い替え時期と思いますが、クロームブックにするのか Windows 1 1 なのかノート PC にするのか、どちらにするのか理由を説明してください。市長の意見もお聞かせください。また、コンピューターではなくても論理的思考力はフローチャートを書いて学べるので、その点についても聞かせてください。

職員回答：買い替えはクロームブックです。今までの 5 年間もクロームブックを使用していますので一貫性を取り、クロームブックで進めています。

市長回答：今まで使っていた子どもたちが、今後も使用することを考え継続性が大事だということで判断したと認識しています。また、タブレットをどう使うか、そもそもの議論もありますが、ご提案いただいたフローチャートを使った手法も検討できると思いました。